

論文審査の要旨

報告番号	甲(乙)第 3010 号	氏名	藤原 久登
論文審査担当者	主査 加藤 裕久 副査 倉田 なおみ 副査 川添 和義		
(論文審査の要旨)			
<p>論文名「Development and evaluation of a formula for predicting introduction of medication self-management in stroke patients in the Kaifukuki rehabilitation ward (回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の服薬自己管理導入に必要な予測式の開発と評価)」</p> <p>回復期リハビリテーション病棟に入院している脳卒中患者は認知障害を伴うことが多い。しかし、脳卒中患者において服薬自己管理導入のための客観的な指標はない。そこで、統一基準のもとで服薬自己管理導入に必要な予測式を作成し評価した。</p> <p>2012年1月～12月の期間に昭和大学藤が丘リハビリテーション病院から退院した脳卒中患者を対象とした。入院時のFunctional Independence Measure (FIM)項目と患者データについて、自己管理群と非自己管理群の2群間比較を行った。</p> <p>対象患者は104名で、平均年齢は70歳であった。服薬自己管理を達成した患者は39名であった。ロジスティック回帰分析の結果、入院時薬剤数、入院時FIM歩行、入院時FIM記憶、年齢の4因子が抽出され、推定精度の高い予測式を作成した。</p> <p>脳卒中患者における服薬自己管理導入にFIM記憶項目、入院時薬剤数や年齢が服薬自己管理導入に影響を与える因子であることが明らかとなった。作成した予測式のモデル診断結果から、モデルの妥当性は良好であり、脳卒中患者の服薬自己管理導入を適切に判定できることが示唆された。</p> <p>本論文は患者の服薬エラーの予防、さらには退院後の自立支援の観点からも臨床的意義は高く、回復期のチーム医療に貢献できると考えられる。論文に関する質疑では論理的に回答し、審査委員は全員一致で博士(薬学)の学位に値するものと判断した。</p>			

(主査が記載、500字以内)